

第58回文化財防火デーの実施

予防課

昭和24年1月26日に日本最古の壁画が描かれた法隆寺金堂が焼損し、その後も文化財の焼損が相次いだことから、消防庁と文化庁では、昭和30年から1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開しています。

文化財は、私たちの祖先が今日まで残してくれた国民共通の貴重な財産であり、一度燃えてしまうと二度と元には戻りません。文化財建造物の多くは木造建築であるため、いったん火がつくと延焼拡大が極めて速くなるおそれがあります。貴重な文化財を火災から守り、後世に伝えていくためには、日頃から防火意識を持ち、関係者だけでなく、地域住民等との連携・協力が必要です。

今年も文化財防火デーの1月26日（木）を中心に、全国各地で地域ぐるみ、住民ぐるみの消防訓練等が実施されました。

■平成24年1月24日（火）

おおくにたまじんじや
訓練場所：大國魂神社（東京都府中市）

東京都内でも屈指の古社で、今から約1890年前の景行天皇の時代に、武蔵国の鎮守（武蔵国魂）として大國魂大神を祀ったのが始めとされています。

東京消防庁のほか、府中市消防団、自衛消防隊、府中女性防火の会などが参加して、初期消火、通報、避難誘導、重要物品の搬出、応急救護、消防活動等の訓練が行われました。

■平成24年1月26日（木）

もとりきゆうにじようじょう
訓練場所：元離宮二条城（京都府京都市）

二条城は、徳川幕府の京都の拠点として、初代将軍家康が慶長8年（1603年）に、京都御所の守護と将軍上洛のときの宿泊所として造営し、3代将軍家光により、伏見城の遺構を移すなどして、寛永3年（1626年）に完成した平城です。

京都市消防局のほか、京都市消防団、自衛消防隊、文化財マイスター、自主防災会などが参加して、初期消火、通報、避難誘導、重要物品の搬出、AEDを用いた救護活動、消防活動等の訓練が行われました。



大國魂神社拝殿への一斉放水

(写真提供：東京消防庁)



元離宮二条城における重要物品の搬出訓練

(写真提供：京都市消防局)



元離宮二条城における訓練閉会式

(写真提供：文化庁)